

第 14 回 中山間地域振興特別委員会

日時：令和 2 年 9 月 14 日(月)
時 分 ～ 時 分
場所：第 4 委員会室

【出席者】 田畑委員長 布施副委員長
川上委員 柳楽委員 野藤委員 上野委員 飛野委員 永見委員

【議長団】

【委員外議員】

【執行部】 総務部長 地域政策部長 防災安全課長 政策企画課長

【事務局】 古森局長 大下書記

議 題

- 1 防災行政無線の更新について（執行部報告）
- 2 テーマ 4「中山間地における安全・安心対策」について（テーマの調整）

【参考】

テーマ 4「安全・安心対策」に係る課題

- (1) 災害時の相互扶助機能の低下、防犯・防災への不安
- (2) 高齢者世帯・独居者の見守り・安否確認体制
- (3) 空き家等の対策（危険空き家・不在地主等）
- (4) 「孤独」への対応（家屋の点在、独居の増）
- (5) 老々介護
- (6) 特殊犯罪対策
- (7) 避難場所の確保
- (8) 落石防止、カーブミラー、河川や砂防ダムの土砂等の撤去

その他

- (1) 商店、ガソリンスタンド等の閉鎖
- (2) 子育て支援
- (3) 雇用の場の確保、産業創出
- (4) 健康維持対策（介護予防事業、サロン等）
- (5) 行政の支援（地域担当制、事務作業の支援等）
- (6) 地籍調査の推進

- 2 その他

○次回開催 月 日（ ） 時 分 第 4 委員会室

防災行政無線の更新（案）について

<方針>

現行の防災行政無線の更新のため、2つの方式を比較検討した結果、**ケーブル回線網を活用した防災システム(ケーブルテレビ防災システム)(B案)**を導入したい。

1 検討の経緯

防災行政無線のデジタル化による更新を検討してきた中で、令和元年7月、市議会中山間地域振興特別委員会からの提言（A案）を受け、ワーキンググループを立ち上げ、下記2案の検討を開始した。

A案：ポケベル周波数を使用した屋外拡声子局、戸別受信機及び独立したスマートフォンアプリの併用

B案：ケーブルテレビ回線網を活用したケーブルテレビ、屋外拡声子局、戸別受信機及び一体的に整備するスマートフォンアプリの併用



さらに、この度のケーブルテレビ回線の光回線化を進めることを踏まえ、戸別受信機の機能・防災及び行政情報の伝達・導入経費について整理した。

2 方針決定の理由

| 項目 | A案 | | B案 | |
|------------|-----------------------------|-----------------------|--------|---------------------------------|
| 戸別受信機の機能 | ほぼ同等 | | | |
| 停電対応 | 各機器、施設共に、乾電池や自家発電装置等により動作可能 | | | |
| 通信障害対応 | 共にリスクがあり、スマートフォンアプリにより補完 | | | |
| 屋外拡声子局 | △ | 専用の中継局の設置が必要 | ○ | 拡声子局に直接接続し使用可能 |
| 防災情報及び行政情報 | ○ | 機械合成音声で放送 | ○ | システムの情報伝達手段に対し、同時に同じ内容を発信可能 |
| | △ | 音声放送、ミュージックサイレン等は放送不可 | ○ | 音声放送、ミュージックサイレン等を放送可能 |
| 経費 | △ | 導入経費及び年間運営費がB案よりも割高 | ○ | 導入経費及び年間運営費がA案よりも安価 |
| その他 | ○ | 利用者の年間利用料負担なし | △ ○ | 利用者の年間利用料（検討中） ケーブルテレビ加入率が上昇 |
| 総合 | ○ | | ◎ | |

浜田市の高速度情報通信基盤整備をケーブルテレビ回線で整備する以上、他の手法での防災システムの整備は、投資の重複になるため、避けるべきと考える。

(1) 戸別受信機の機能

| 戸別受信機の機能比較表 | | A案 戸別受信機 | B案 戸別受信機 | スマートフォンアプリ |
|-------------|---------|--|---|---|
| 端末写真 | |  |  |  |
| 機能 | 行政情報 | ○ | ◎ | ○ |
| | データ放送視聴 | × | × | ○ |
| 災害時 信頼性 | 停電時 | 乾電池で稼働 | 乾電池で稼働 | 充電手段が必要 |
| | 通信施設障害 | 中継局が機能不全となったときは、広範囲が不通となる | ケーブル線が断線したときは、断線した先の各戸が不通となる。 | - |
| | 通信感度等 | 不感地区、荒天時の電波障害あり | 有線のため市内全域で良好 | 不感地区あり |
| メリット | | <ul style="list-style-type: none"> 無線による災害の耐性 持ち運び可能 年間利用料なし | <ul style="list-style-type: none"> ケーブルテレビ局との連携による情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンから無料で利用可能 発信者と受信者間の双方向通信が可能 |
| デメリット | | <ul style="list-style-type: none"> 1社独占事業による保守対応等への懸念 山間地域は電波不感地域が出る懸念 | <ul style="list-style-type: none"> 有線のため持ち運び困難 年間利用料あり | <ul style="list-style-type: none"> スマートフォン専用 |

(2) 導入経費

光回線化整備と同時に戸別受信機の宅内工事を施工することで、費用を抑えることができる。また、ケーブルテレビ防災システムは年間運営費が安価である。

(千円)

| 項目 | | A案 | B案 | 参考：同報系デジタル 防災行政無線 |
|-------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------------------|----------------------|
| 導入経費 | 現台数+浜田自治区5割世帯 (15,951台) | 961,928 | 969,242 | 1,897,328 |
| | ↳光回線整備と同時に宅内工事をした場合 | - | 841,943 | - |
| 導入経費のうち、1世帯あたりの単価 | | (戸別受信機代) 19,800 (工事費) 0 | (戸別受信機代) 13,200 (工事費) 8,800 | - |
| 年間運営費 | | 9,554 | 5,810 | 9,533 |

・戸別受信機代、宅内工事費は市が負担。

・上記金額のうち、併用するスマートフォンアプリについて、台数関係無く導入経費30,000千円、年間運用費1,500千円を含む。

3 導入時の世帯負担

4つの導入パターンで整理し、新規に戸別受信機を設置する場合、設置分担金の負担を検討している。

(円)

| 項目 | 導入機器 | B案 ケーブルテレビ防災システム | | | | | | 備考 | |
|---------------|----------------|------------------|--------|--------|--------|-------------|--------|----|---------|
| | | 戸別受信機 | | | | アプリ | | | |
| | | ① 加入済み | | ② 新規加入 | | ③ 戸別受信機のみ利用 | | | ④ 必要なし |
| ケーブルテレビ加入状況 | 戸別受信機設置状況 | 設置済 | 今回設置 | 設置済 | 今回設置 | 設置済 | 今回設置 | - | |
| | 戸別受信機設置状況 | 設置済 | 今回設置 | 設置済 | 今回設置 | 設置済 | 今回設置 | - | |
| 負担額 | 戸別受信機代 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 市が購入し貸与 |
| | 宅内工事費※1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | |
| | ケーブルテレビ新規加入料※2 | - | - | 協議中 | 協議中 | 0 | 0 | - | |
| | 設置分担金 | 0 | 11,000 | 0 | 11,000 | 0 | 11,000 | 0 | |
| 小計 | | 0 | 11,000 | 0 | 11,000 | 0 | 11,000 | 0 | |
| 新規利用料負担(月額)※2 | | 0 | 0 | 2,090 | 2,090 | 協議中 | 協議中 | 0 | |

※1 高速情報通信基盤事業実施期間中は、市が負担する。

※2 ケーブルテレビ新規加入料及び新規利用料負担(月額)については、石見ケーブルビジョンと協議中。

4つ目のテーマとして取り組むべき内容について

◎：課題とする、○：要検討、×：課題としない

| | | 合計 | | |
|-----|----------------------------|----|---|---|
| | | ◎ | ○ | × |
| 4 | 「安全・安心対策」に係る課題 | | | |
| (1) | 災害時の相互扶助機能の低下、防犯・防災への不安 | 2 | 3 | 3 |
| (2) | 高齢者世帯・独居者の見守り・安否確認体制 | 3 | 2 | 3 |
| (3) | 空き家等の対策(危険空き家・不在地主等) | 2 | 1 | 5 |
| (4) | 「孤独」への対応(家屋の点在、独居の増) | 0 | 3 | 5 |
| (5) | 老々介護 | 0 | 3 | 5 |
| (6) | 特殊犯罪対策 | 0 | 1 | 7 |
| (7) | 避難場所の確保 | 1 | 3 | 4 |
| (8) | 落石防止、カーブミラー、河川や砂防ダムの土砂等の撤去 | 2 | 4 | 2 |
| 5 | その他 | | | |
| (1) | 商店、ガソリンスタンド等の閉鎖 | 1 | 2 | 5 |
| (2) | 子育て支援 | 1 | 0 | 7 |
| (3) | 雇用の場の確保、産業創出 | 3 | 2 | 3 |
| (4) | 健康維持対策(介護予防事業、サロン等) | 0 | 1 | 7 |
| (5) | 行政の支援(地域担当制、事務作業の支援等) | 3 | 3 | 2 |
| (6) | 地籍調査の推進 | 1 | 2 | 5 |